

鹿児島の植物 65

岩場の植物

植物担当 久保 紘史郎

岩場は風当たりが強かったり、乾燥しやすかったりと、植物にとって過酷な環境です。そのため、他の場所では見られない植物が生育しています。厳しい環境で生きる逞しい植物たちを紹介します。

ハヤトミツバツツジ (ツツジ科)

3～4月に薄桃色の花を咲かせます。以前は、鹿児島県本土の岩場に多数自生していました。しかし、花が美しいことから乱獲され、現在は、ほとんど残っていません。人が近づけない断崖絶壁だけに少数個体が生き残っています。

マンサク (マンサク科)

3月～4月初めにかけて黄色い花を咲かせ、真っ先に春の訪れを伝える植物です。大浪池

河口周辺の群生が有名ですが、栗野岳、高隅山、大口の山地でも観察されます。

サツمامネングサ (ベンケイソウ科)

薩摩半島南部の岩場だけに生育する鹿児島県固有の植物です。葉は厚く、極めて乾燥に強い多肉植物です。押し葉標本を作るために新聞紙に挟んでも、乾くまで1か月ほどかかることもあります。花期は6月～7月。

イワギリソウ (イワタバコ科)

日当たりの悪い湿った岩場に生育します。5～6月ごろ薄い赤紫色の花を咲かせます。九州では薩摩半島南部と大分県の国東半島だけに生育する希少な植物です。